

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3観点のうち、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容の正答率が高い。
	よくできた問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題。

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5観点全てにおいて、全国平均正答率を上回った。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題。

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回った。特に、「粒子を柱とする領域」の正答率が低かった。
	よくできた問題	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的回答をした児童が、90%を上回っている。クラスの学習活動、クラブ活動や委員会活動、学校行事の中で、個々に適した活躍の場を意図的に設定している成果が出ている。</p> <p>・「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）の質問について、休日は平日より30分程度学習時間が短いという回答結果だった。「計画立案の不足」と、自立的に学ぼうとする「自主性の不足」という課題があると考える。今後の取組では、金曜日等の休日前に時間や学習範囲を具体的にさせる計画指導を充実させるとともに、個々の興味・関心に基づく探究的な学びを計画に組み込むよう助言することで、児童自らが学習をコントロールする力を養い、主体的な家庭学習への動機づけを図っていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「割合」に関する問いに課題が見られた。割合の意味理解には実生活が欠かせないことから、割合を単なる計算問題ではなく「便利な道具」として実感させるため、生活の身近な数値を割合で表現する活動を取り入れるようにする。

・文章の「要旨」を捉えることに課題が見られた。文章の「要旨」を捉えることに課題が見られた。授業で学んだ文章の読み取り方を読書時間にも試せる環境を整え、学習と読書の往還を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・休日の学習の取組と合わせて、家庭学習ウィークなどを活用し、家庭学習の1週間の計画を立てるなど自己調整して学習を進めることができるようにしたい。また、家庭学習の大切さと取組について保護者にお知らせし、家庭学習の質の向上を目指す。